

多可町の建築物における木材利用の促進に関する方針

「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律（平成22年法律第36号。以下「法」という。）」第12条第1項の規定に基づき、兵庫県が定める「兵庫県建築物木材利用促進方針（以下「県方針」という。）」に即して、多可町の建築物における木材利用の促進に関する方針（以下「本方針」という。）を定める。

第1 建築物における木材の利用の促進のための施策に関する基本的事項

1 建築物への木材利用促進のための施策の方向性

公共建築物において率先して木材を利用することで、民間建築物への波及を進める。そのために、県などと連携を図り、各種支援（情報発信、木材利用の動機づけ等）や普及啓発に取り組むものとする。

なお、使用する木材については、「兵庫県県産木材の利用促進に関する条例（平成29年6月12日兵庫県条例第19号）」の趣旨を踏まえ、県産木材及び多可町産木材「TAKAMADE」の利用を促進する。

2 建築物における木材利用の促進

（1）公共建築物における木材利用の促進

多可町が整備する公共の用又は公用に供する建築物及び、多可町以外の事業者が整備する、これに準ずる建築物（社会福祉施設、医療施設等）において木材利用を促進する。

これらの建築物においては、県及びひょうご森づくりサポートセンター等と連携をしながら、計画時点でコストや技術の面で木造化が困難であるものを除いて積極的に木造化を促進し、木造化が困難と判断されるものも含めて内装等の木質化を促進する。

なお、これらの公共建築物において使用される備品及び消耗品については、木材を原材料としたものの利用促進を図り、木質バイオマスを燃料とする暖房器具やボイラー等についても、燃料の安定供給や適切な維持管理に配慮しつつ促進に努める。

（2）民間建築物における木材利用の促進

これまで木材利用が進んでいなかったオフィスや店舗等をはじめとする民間建築物への新たな需要開拓を図る。そのため、県及びひょうご森づくりサポートセンター等と連携をしながら、建築主への木造建築事例等の情報発信に努める。

（3）住宅における木材利用の促進

住宅の新築及びリフォームにおける県産木材及び多可町産木材「TAKAMADE」の利用促進を図る。このため、県産木材及び多可町産木材「TAKAMADE」を利用した住宅建築への支援や、施主に対する県産木材及び多可町産木材「TAKAMADE」の利用に関する情報発信に努める。

3 建築物木材利用促進協定制度の活用

法第15条に定める同制度の活用により、建築物における木材利用の取り組みが進展するよう、建築主となる事業者等に対する同制度の積極的な周知に努める。

また、事業者等から建築物木材利用促進協定の締結の申出があった場合、法の目的や基本理念、本方針に照らして適当なものであるかを審査し、締結の応否に係る判断を行う。

さらに、建築物木材利用促進協定を締結した場合には、協定の内容等をホームページ等で公表し、協定に定められた取り組み方針に即した取り組みを促進するため、協定締結者に対し、活用できる支援制度や木材利用に係る技術的な情報提供を行うとともに、取り組み内容について情報発信をするように努める。

4 木材利用の促進の啓発

関係団体と連携し、木材利用の促進に向けて以下のことに取り組むよう努める。

- ① 住民の目に触れる機会の多い公共建築物における木材利用の促進を図るとともに、ホームページやパンフレット等における木造建築物の事例紹介により、木材利用の効果について積極的に住民へ普及啓発を行う。
- ② 建築物への木材利用について広く住民の関心と理解を深めるため、特に、木材利用促進の日及び木材利用促進月間において、木材利用に関する関連イベントの実施、ホームページ等の各種媒体における情報発信事業を重点的かつ広範囲に計画するよう努める。

第2 多可町が整備する公共建築物における木材の利用の目標

1 木造化を図る公共建築物の範囲

計画時点でコストや技術の面で木造化が困難であるものや、求められる機能等の観点から木造化になじまない又は木造化を図ることが困難であると判断されるものを除いて、原則として木造化を検討する。

2 重点的に内装等の木質化を促進する公共建築物の部分

高層・低層にかかわらず、直接又は報道機関等を通じて間接的に住民の目に触れる機会が多いと考えられる部分（エントランスホール、住民対応窓口、会議室等）を中心に、内装等の木質化を図ることが適切と判断される部分については木質化を検討する。

3 利用促進を図る木製の備品等の種類

備品（机、椅子、棚、パーテーション、受付カウンター、サイン（案内標識）、ベンチ、玩具、遊具等）及び消耗品（紙類、文具、名札、普及啓発のために配布する資材や記念品等）については、木材を原材料としたものの利用推進を図るほか、暖房器具やボイラー等を設置する場合は、木質バイオマスを燃料とするものの導入を検討する。

4 県産木材及び多可町産木材「TAKAMADE」の活用

木材の利用にあたっては、調達やコスト面で困難でない限り、原則として県産木材及び多可町産木材「TAKAMADE」を利用する。

5 先進的な技術等の活用

木造化及び内装等の木質化にあたっては、技術開発の推進や木造化に係るコスト面の課題の解決状況などを踏まえ、製材等のほかCLTや木質耐火部材などの活用、木造と非木造の混構造やTajima TAPOS[®]等の技術の活用に取り組むよう努める。

6 環境物品等の利用

木材を利用するときは、環境省のグリーン調達方針に規定する特定調達品目に該当するものは、原則としてグリーン調達方針に示された「判断の基準」を満たすものを目標とする。

第3 建築用木材の適切かつ安定的な供給の確保に関する基本的事項

建築物における木材の利用を促進するには、一般的な寸法の木材をはじめ、利用空間を確保するために求められる長尺・大断面の木材、CLT、木質耐火部材などの建築用木材及び合法伐採木材が、適切かつ安定的に供給される必要がある。

このため、森林所有者や素材生産業者等の林業従事者、木材製造業者その他の木材の供給に携わる者が連携して、①林内路網の整備、林業機械の導入、施業の集約化等による林業の生産性の向上、②木材の需給に関する情報の共有、③木材の安定供給・調達に関する合意形成の促進、④木材利用の動向やニーズに応じた木材の適切な供給のための木材製造の高度化・流通の合理化、⑤合法伐採木材やJAS製品の供給体制の整備等に取り組むことで、建築用木材の安定供給を図るものとする。

第4 その他建築物における木材の利用の促進に関し必要な事項

1 公共建築物の整備等において考慮すべき事項

公共建築物の整備にあたっては、建設コストのみならず維持管理及び解体・廃棄等のコストを含むライフサイクルコストについて検討するとともに、利用者ニーズや木材利用による付加価値等も考慮する。

備品や消耗品の導入についても、購入コストだけでなく木材利用の意義や効果も含めて総合的に判断する。

木質バイオマスを燃料とする暖房器具やボイラーを導入する場合は、当該暖房器具やボイラーの導入及び燃料の調達に要するコスト、燃焼灰の処分を含む維持管理に要するコスト及びその体制についても考慮する。

2 建築物における県産木材及び多可町産木材「TAKAMADE」の利用促進のための体制整備に関する事項

多可町が整備する公共建築物への県産木材及び多可町産木材「TAKAMADE」の利用推進にあたっては、関係部局間で横断的に利用を検討する仕組みを設けて、木造化及び内装等の木質化を図る公共建築物を整備するために必要な取り組みを行う。

3 国や関係自治体などとの連携

建築物への県産木材及び多可町産木材「TAKAMADE」の利用を促進するには、多可町にとどまらない広域的な視点に立った木材の効率的かつ安定的な供給体制の整備や、木造施設の整備状況等に関する情報共有などが必要なことから、木材の利用促進に必要な施策を実現するため、国や関係自治体などとも相互に連携を図るものとする。

※用語の定義

- ①「県産木材及び多可町産木材「TAKAMADE」」とは、県内の多可町以外の市町及び多可町の森林で生産された原木を原材料として、県内の工場で加工された木材（県内で加工できない場合においては、県産木材及び多可町産木材を原材料として使用していることを証明できる木材を含む。）をいう。
- ②「木造化」とは、建築物の新築、増築又は改築に当たり、構造耐力上主要な部分である壁、柱、梁、桁、小屋組等の全部又は一部に木材を利用することをいう。
- ③「内装等の木質化」とは、建築物の新築、増築、改築又は模様替えに当たり、天井、床、壁、窓枠等の室内に面する部分及び外壁等の屋外に面する部分に木材を利用することをいう。